

DEBUT 首長

山梨県山梨市長 望月 清賢氏



もちづき・せいぎ 1947年山梨県山梨市生まれ。74年金沢工業大学工学部卒。83年に山梨市議会議員初当選。同市議を3期、山梨県議会議員を4期務める。2014年山梨市長選で当選。

新図書館建設は見直し 大学や商業施設誘致狙う

山梨市 県庁所在地の甲府市の東に隣接。JR中央線の特急かいじが山梨市駅に停車し、新宿から約1時間半。隣の笛吹市には負けるが、山梨県が日本一の生産量を誇る桃、ブドウの産地として一翼を担う。甲府盆地を見下ろす高台に立地する山梨県笛吹川フルーツ公園がランドマーク。

——就任早々、前市長が決めた図書館新設見直しを表明した。

経済的な発展を生み出さないものはなるべく抑えていきたい。図書館は旧市役所跡に建設する計画だったが、解体費だけでも当初予定を大幅に上回っている。16億3500万円の事業費だが、20億円近くに増えるかもしれない。市民から絶対に必要だという声はない。新設ではなく、既存の建物の中でなんとかできないかと考えている。例えば市民会館の式場スペースを活用するなどの案がある。

——図書館を建てない旧市役所跡はどうするのか。

旧市役所跡にはできれば大学を誘致したい。文科省の認可を取るには山梨県内でまだ不足している薬学部がいい。6年制なので1学年100人として6学

年で600人を集めるのは大変だが、薬学関係の研究施設も誘致できる可能性がある。市立など公立でないで設立するのは難しいだろう。

——牧丘町、三富村と合併して来年で10年になる。

平成の大合併の第2弾を考えた方がいいのではないかと。特に峡東3市と呼ばれる甲州市、笛吹市とは果物が主要生産品など共通項は多い。具体的な話をしていくわけではないが、観光やブドウ関連の会議で市長が顔をそろえる機会もあり、検討している課題だと思っている。

——山梨市は県内13市の中で財政力指数が最下位だ。

新図書館建設をやめるほか、旧牧丘町にある総合会館を廃止するなど不要な施設を撤去する面はもちろんあるが、ポイントは自主財源である固定資産税をいかに増やすかだ。市内の廃止されたゴルフ場跡で民間企業が住宅開発を計画しており、上下水道の整備で協力していくので、1戸当たりの敷地が広い宅地にしてもらいたい。

商業施設の誘致にも力を入れ

たい。転用が難しい農業振興（農振）地域に指定されている農地に立地する場合には農振地域除外をする必要があるが、10ha級の転用となると、山梨県の農業政策のマスタープランの変更も必要になるので、なかなか難しい。ただ、大きなインパクトのある施設を誘致できる可能性もあり、市の一存では決められないが除外に協力していきたい。

——インフラ整備も大きな課題だ。

山梨市はJR中央線に分断されている。これを解消するために中央線をまたぐ跨線橋を2つ計画している。甲府市南部に将来建設されるリニア中央新幹線の新駅へのアクセスを良くするため、県道の整備を進めてもらわなければならない。（特急が停車する市の中核駅である）山梨市駅は北口しかないが、南口を整備する50年に一度の大事業も進めている。

（聞き手は

甲府支局長 清水 英徳）